
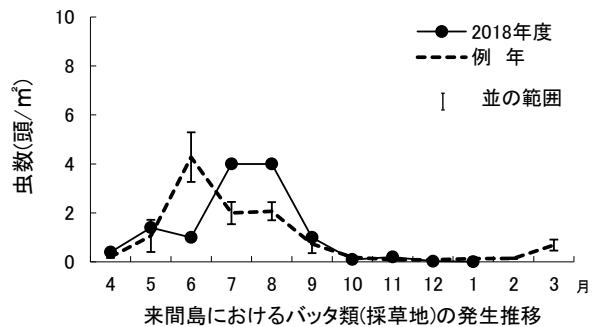
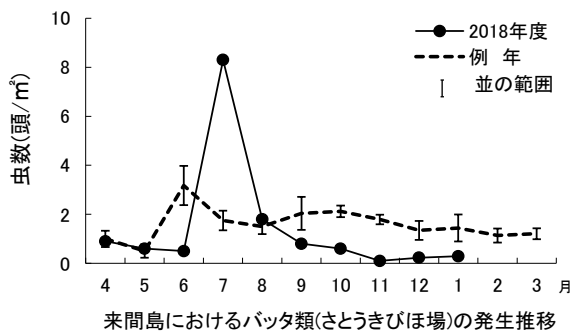


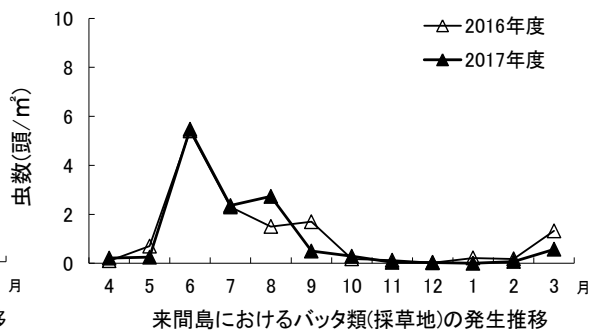
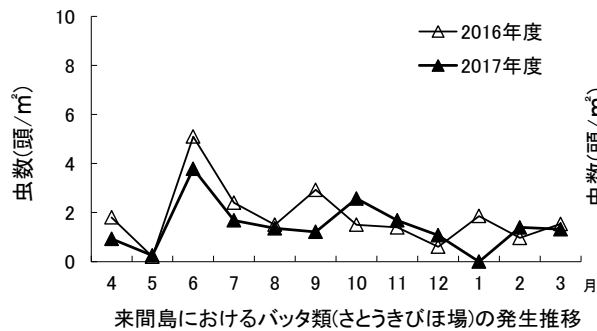
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
1 月の発生量 (現況)	少		
2 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	さとうきびほ場における成虫の例年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

今年と例年の推移




過去 2 年間の推移



- ・ 来間島の一部地域では多発していた。(発生種：タイワンツチイナゴ)
- ・ 本調査にて成虫が多数確認された。

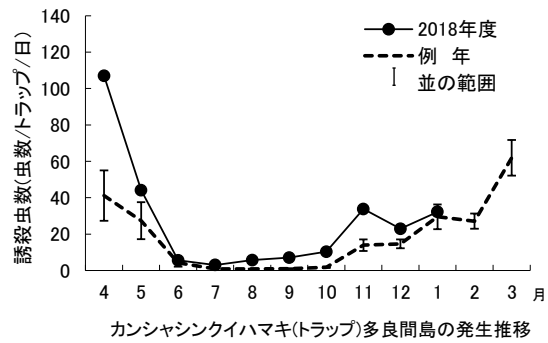
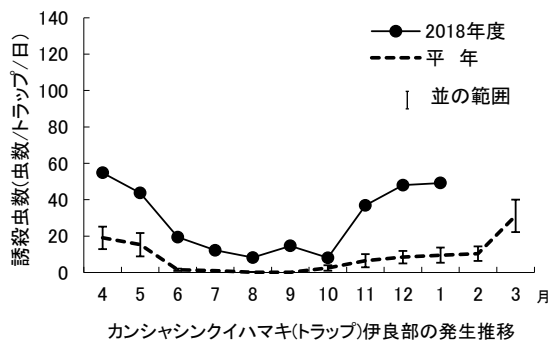
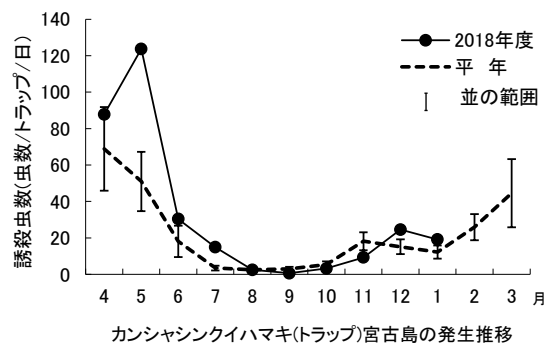
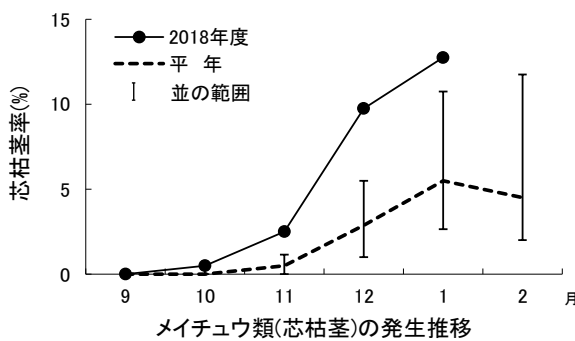
防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
1月の発生量(現況)	やや多		
2月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


今年と平年の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の69.6%がカンシャシクイハマキであった。

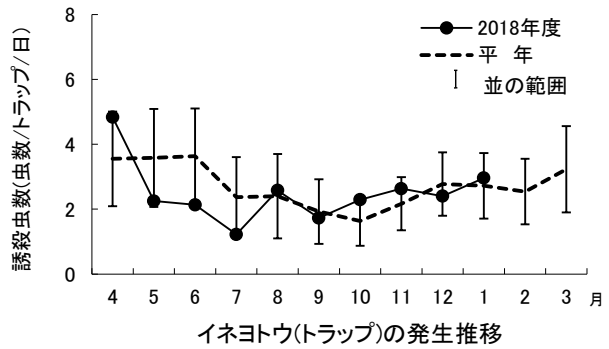
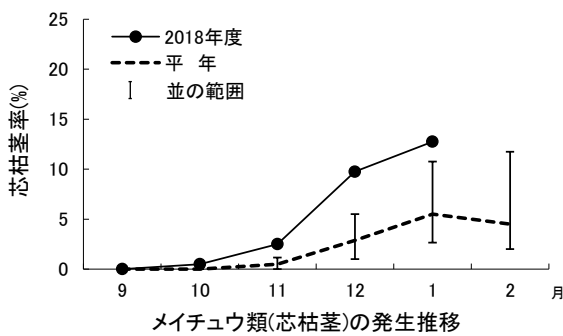
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

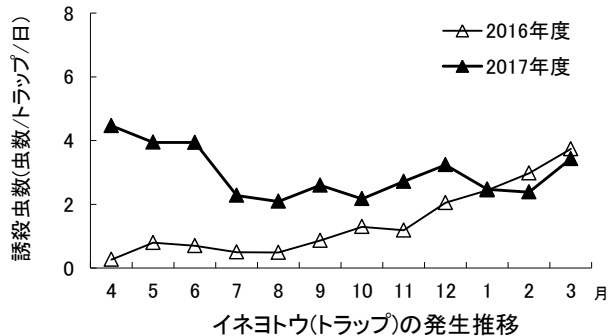
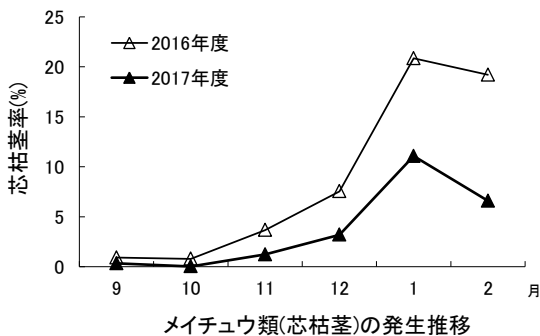
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
1月の発生量(現況)	やや多		
2月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の推移



過去2年間の推移



・茎内で発見したメイチュウ類の30.4%がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。